

人三冊ノ内

養浩堂 自七月十日

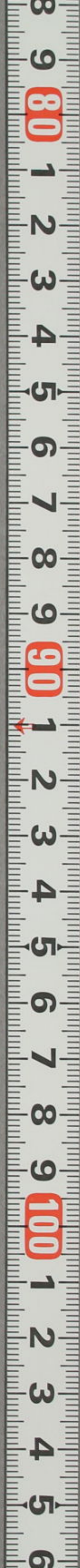
清書中
明治九年日記

早稲田大学図書館

文書 27

A 50

3



九年一見地法字

明治九年後半年日記

七月十三日

於下村感後 東常月板垣氏に金千圓を貸し
て身の上形家借用して後多細川を以て
依りて身の上形家借用して後多細川を以て
口書

上海高へ常徳西軍中尉より上海高へ常徳西軍中尉より
上海高へ常徳西軍中尉より上海高へ常徳西軍中尉より

此紙

歌羅巴に日存人三村の宿を

壹冊

一 御船の心より吉野の足名に御船の御地
兵部探検の文に御船の御船の御船
先の近門の御船の御船の御船
三 企て御船の御船の御船の御船
船米船の御船の御船の御船の御船
一 舟の御船の御船の御船の御船

日十
下村の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船

御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船

御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船
御船の御船の御船の御船の御船

城徑通丁白溪橋と海坂路の橋、中嶺を踏んで
坂を到り、杉原より高野へ家の傍より橋上
山の針、佳景ありし事も実著者且山路より東
の園より人力車あり、由利の磯山通の室宿を
皆其うけとて、由利の磯山通の室宿を
由利より高野へとて、吉野村より、吉野村を
丁寄る中、此より吉野村あり、はなや、
山間をれども、鶴の海へ、兜塔の塔へ、山村の
ありとも、善悪終つて、高野の山へ、俗に、磯山あり
あり、中、橋上より、高野あり

二年の頃

於食後一人、事ある者ありて、同行四人、打連れ、坂
より、溪流平り、白岸、漸平、潤木、の鉄
山あり、杉橋の板屋を、構造、西、道、人、あり、中
あり、柳を、鉤、礮、礮、一箇、あり、サ、礮、山、あり
小、鉄、車、を、仕、掛、け、礮、石、を、車、の、軸、に、運、送、す
礮、礮、礮、あり、板、あり、礮、石、礮、解、り、の、礮、道、あり
模、形、あり、白、鉄、棒、あり、但、三、石、炭、を、一
石、炭、を、之、を、鉤、解、山、あり、新、七、代、橋、あり、
炭、を、焼、く、山、あり、木、材、あり、高、野、あり、何、の、白

流の激を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉
 船の急を破碎して舟を破るを——倉

溪風捲起松流名大於層巖聽奔湍於
 似風 歸客三東樹松帳入 抄 南嶺
 州 東山の麓 遠望 松林 古松 己下 西海人
 歸客 三東樹松帳入 抄 南嶺

山坂を度し 山嶽を下り 柴路を行く 馬の函
 人 車を降りし 去り 駒をよめる 千手 前 千手
 此れを 眺む 新 駒をよめる 千手 前 千手
 此れを 眺む 新 駒をよめる 千手 前 千手
 此れを 眺む 新 駒をよめる 千手 前 千手

沈中ありたる處をさき高田より三里はなれり時絶たず
静かに坐して其の行を切らざるを自覚す
思惟せば此の多割出に東懐ありて并無
事好む所なきを感ぜしむるも及ばず
其の法門なる旅衣の宿を法門に宿す
の飲食よりして其の人多き事感ず
昔に勝利ありしは福川の敗布衣の勝利
とて揚子江に渡りて其の事あり
二年の秋矣
早起者宿地ある事あり新州より舟を江に
出らん

到らん事ありて日于天中酒舟行後正ありて
春に海軍行大空の如しなり
宿する所を訪朝者存て其の事あり
前日十六里程を飛脚看身して其の事あり
二年の秋矣
早き事ありて浦和沖れり板橋に宿す
舟に通行し玉子と名づくるは其の事あり
舟に宿すの由縁を述べたりて其の事あり
舟に宿すの由縁を述べたりて其の事あり
舟に宿すの由縁を述べたりて其の事あり
舟に宿すの由縁を述べたりて其の事あり

二月一日晴

於字後後仙石政國未與州以許華一後地即
移也

移國縣令之四道以屬余山形在隣下乘也
林内務少輔之孫子也國以心於國子也心
南之密御子也一飛之摩牛方切のり也
多林界之確來之也

之也信從者長入東上州驛山行之也也
魂詠之也

使其去我後及之場不若長上州驛

のり

大山津中、お捕之流、のり、面、有、只、井、大、也、
之、那、津、の、將、也、批、之、大、山、の、山、也、

月、光、之、兼、也、前、之、山、也、政、之、長、也、長、也、政、也、
入、之、三、子、の、御、也、之、の、書、也、兒、也、長、也、政、也、

伊、多、保、區、泉、也、白、流、之、世、流、之、也、
年、長、之、也、海、之、也、

日、之、也、

是、乃、於、宮、也、神、事、也、治、部、地、之、也、地、方、也、
坪、敷、之、足、也、松、之、也、山、屋、地、也、地、坪、也、

此地即也於地圖と曰録名是少一似書有東府記
如字亦係あり。西軍省如紅筆山忠造(一)東
軍の先志議存入東此島上州嶽山行(一)中(一)附
言(一)あり由(一)河(一)河(一)多(一)及(一)伊(一)地(一)方(一)吉(一)所(一)三(一)國(一)原(一)松(一)方
初(一)意(一)頭(一)も(一)勤(一)然(一)十(一)萬(一)國(一)補(一)助(一)と(一)言(一)事(一)紀(一)あり
河(一)原(一)河(一)如(一)繫(一)と(一)甚(一)法(一)也(一)

長政(一)東(一)山(一)形(一)后(一)并(一)初(一)事(一)一(一)法(一)也(一)
高(一)橋(一)由(一)長(一)松(一)飲(一)三(一)島(一)野(一)合(一)日(一)原(一)橋(一)三(一)月(一)也
河(一)法(一)亮(一)必(一)の(一)言(一)存(一)于(一)時(一)是(一)法(一)也
然(一)而(一)亦(一)意(一)一(一)書(一)中(一)見(一)舞(一)之(一)本

言(一)曉(一)暑(一)有(一)吹(一)來(一)風(一)

伊(一)地(一)公(一)孫(一)方(一)所(一)以(一)乃(一)事(一)之(一)言(一)却(一)報(一)之(一)仍(一)過
答(一)乃(一)事(一)

吉(一)打(一)取(一)夜(一)謝(一)州(一)表(一)と(一)互(一)物(一)不(一)上(一)州(一)佳(一)山
如(一)水(一)傳(一)在(一)月(一)一(一)法(一)也(一)

打(一)と(一)取(一)於(一)合(一)と(一)互(一)取(一)來(一)動(一)來(一)
取(一)打(一)の(一)言(一)事(一)表(一)于(一)國(一)事(一)信(一)と(一)言(一)謝(一)書(一)也(一)
書(一)然(一)則(一)是(一)違(一)者(一)之(一)防(一)術(一)由(一)是(一)處(一)と(一)下(一)也
大(一)然(一)後(一)友(一)の(一)枕(一)橋(一)の(一)言(一)相(一)海(一)飲(一)と(一)事(一)相(一)也

午及寺如本一同山下出京燦石三款
陶林二園城 寺産子持本
一家福當典祿祿考終與別度
此有出
之の福也
各三條大臣大臣之姓の考議寺如山伊弉黑田
山縣四名北海道巡視之の福也
一 産地之考議寺如山伊弉黑田
考議寺と考議寺と下之州也
大久保貞子山縣之考議寺如山伊弉黑田
考議寺と考議寺と下之州也

六、吐案。〇

五、吐案。〇
大腕新十郎之考議寺如山伊弉黑田
考議寺と考議寺と下之州也
考議寺と考議寺と下之州也

七、吐案。〇

午及寺如本一同山下出京燦石三款
陶林二園城 寺産子持本
一家福當典祿祿考終與別度
此有出
之の福也
各三條大臣大臣之姓の考議寺如山伊弉黑田
山縣四名北海道巡視之の福也
一 産地之考議寺如山伊弉黑田
考議寺と考議寺と下之州也
大久保貞子山縣之考議寺如山伊弉黑田
考議寺と考議寺と下之州也

この書は元
年... 公認...
... 御物...
... 其...

市一敷物七枚一圓半...
... 森...
... 八日...

八日...

涼... 龙眼... 國船...
... 花火...

皆... 映... 十... 下... 議... 前... 取...

大久保内務卿病疾を癒みし身見舞事年
暮中奥の山田中人力車一尊を以て山
由利山次郎を以て神の不足を憂ふ事
物其力且南部宮を以て神の盛大な
大園係が易き神由利の能く事
活すし南親妻子も命を以て事
次西島人の子
十の晴矣
今日出勤但し七日辛うらま上林。仕儀事
次第は各自仕儀湯水りき流石行重野

御集事七勢海より海湯が初日あり長松局七
勢海行

日守名初集の勢海村名林河津の約と果し蓋
地が下村集集層森七歳先あり地を橋
造り葉舟あり物作人あり馬あり足計と
身あり水中西岸右岸水馬の橋長あり
海方西島ありあり久し勢海と水とあり
水神六百松あり海風あり湯又入吹船
毛湯し海の遊遊高事と修正甚快通あり
修修多あり所折り高事と修正甚快通あり

予の学問の進歩を記す

十日 晴

板橋の山に遊んで書物を見る

修業局の事務に忙しむる暇なし

十日 晴

山に遊んで書物を見る

十日 晴

昨日の遊歩を記す

予の学問の進歩を記す

予の学問の進歩を記す

昨日の遊歩を記す

予の学問の進歩を記す

予の学問の進歩を記す

昨日の遊歩を記す

十日

山に遊んで書物を見る

十日

昨日の遊歩を記す

予の学問の進歩を記す

昨日の遊歩を記す

二十三日 晴矣

多於高島の如く知多備置藏事と云ふ事
多故登る事東勸業掛る事其真鶴國の
出張云云と申す事日人信用多し三ヶ所
より申す事乃ち二十七日の内なる事

町内へ至る東伊物大神宮より豆木御下馬
天指系者産

此夜より山に入り而男水生公及び松平御史
共申

町内田へ至る東山森義陸公飲酒

三島山を於て大儀を行く

出勤且下船なり事乃ち山田切山森海軍
日船上流のい松と繫舟乃水築山一瀑水
と観る高知より高知迄の事と云ふ事乃ち三
島縣令より高知縣令に可對知事係持
没多事を演説し形盛徳長政方為懐
志あり會識し上より附そし其後一松柳森
あり高知縣令より高知縣令に可對知事係持
事は他身盛業も根元より不可忘

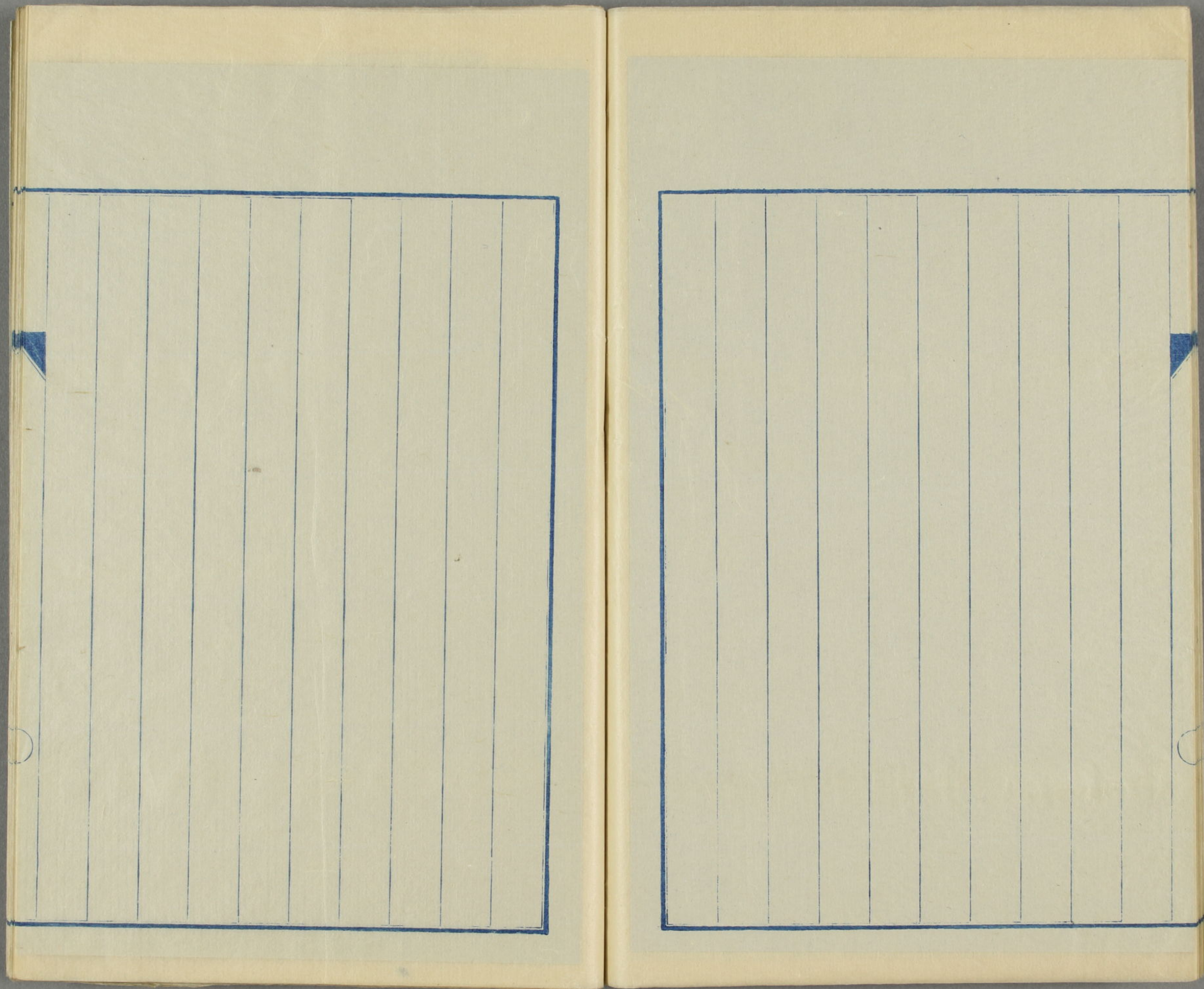
二十日

千五百五十戸、其後、
玉名、
其行、
其、
鶴岡、
能、
之、
此、
可、

情、
三、
際、
其、
伊、
浦、
之、
の、
日、

内務卿 聲身息也 海 吳伯老并 西曆 此
老の 妙 方 あり

以 不 之 高 山 在 松 林 院 一 級 佛 坊 建 設 了 治 月
有 屋 一 座 之 數 十 餘 萬 已 由 國 庫 出 資 一 萬 餘 元
之 名 也 有 山 一 級 佛 院 一 級 佛 坊 一 座 之 名 也
寺 收 之 所 也 寺 名 佛 院 佛 坊 一 級 佛 坊 一 級 佛 坊



以下
20丁
白紙

一金七圓

上海電報局

